

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		国際教養学科		
科目名称	大学編入演習					授業形態		演習		
科目コード	590067	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験担当教員			Active・L	○
担当教員名	田中 利砂子							ICT活用	○	
授業概要	大学の授業では、答えのない問題に自分で取り組むことになる。いろいろな答えを考え、さらにそれとは異なる視点から検討・批判し、より適切な答えを探しながら自律的に学んでいかなければならない。4年制大学への編入学試験では、このような能力（問題解決能力）が備わっているか否かが問われる。そこで、大学編入演習では、一般教養図書の読解を通して大学での学びに必要なクリティカル・シンキング（批判的思考）の力を養成する。また、他者と協力して学びあうことで、互いに貢献し認めあう態度も養う。									
関連する科目	・文章表現の基礎Ⅰ ・文章表現の基礎Ⅱ ・大学編入実践演習									
授業の方法と進め方	・事前課題による予習に基づいて授業を進める。 ・対話活動を中心に授業を進める。 ・必要に応じて、課題提出やフィードバック等にUniversal Passportのクラスプロフィールを使用する。									
第1回	授業の説明、大学で学ぶということ 高校までの学びを振り返り、大学での学びとの違いについて考える。									
第2回	議論を読むということ 議論の読み方について知る。									
第3回	第1章「ことばの構造、文化の構造」：テキスト理解 『ことばと文化』第1章「ことばの構造、文化の構造」の文章の構成を分析した上で、難しい一節をパラフレーズしながら読む。									
第4回	第1章「ことばの構造、文化の構造」：理解から表現へ 『ことばと文化』第1章「ことばの構造、文化の構造」の本文に質問を投げかけながら読む。									
第5回	レポートの書き方：レポートとは レポートを書く目的とレポートの種類について知り、レポートを書くスキル養成のための練習をする。									
第6回	レポートの書き方：論理構成を考える 考察を書くことについて考え、さらに、レポートの基本的な構成について知る。									
第7回	レポートの書き方：論理構成のピア・レスポンス 各自が考えたレポートの構成を持ち寄り、互いに検討し合う。									
第8回	第1章「ことばの構造、文化の構造」：ピア・レスポンス 各自が考えた『ことばと文化』第1章「ことばの構造、文化の構造」に関するレポートの構成を持ち寄り、互いに検討し合う。									
第9回	第2章「ものとことば」：テキスト理解 『ことばと文化』第2章「ものとことば」の文章の構成を分析した上で、難しい一節をパラフレーズしながら読む。									
第10回	第2章「ものとことば」：理解から表現へ 『ことばと文化』第2章「ものとことば」の本文に質問を投げかけながら読む。									
第11回	第2章「ものとことば」：ピア・レスポンス 『ことばと文化』第2章「ものとことば」に関するレポートの構成を持ち寄り、互いに検討し合う。									
第12回	第3章「かくれた規準」：テキスト理解 『ことばと文化』第3章「かくれた基準」の文章の構成を分析した上で、難しい一節をパラフレーズしながら読む。									
第13回	第3章「かくれた規準」：理解から表現へ 『ことばと文化』第3章「かくれた基準」の本文に質問を投げかけながら読む。									
第14回	第3章「かくれた規準」：ピア・レスポンス 各自が考えた『ことばと文化』第3章「かくれた基準」に関するレポートの構成を持ち寄り、互いに検討し合う。									
第15回	第3章「かくれた規準」：論理構成のピア・レスポンス 各自が執筆した『ことばと文化』第3章「かくれた基準」に関するレポートを読み合い、互いに検討する。									
授業の達成目標	① 書かれたものを鵜呑みせず理解し、吟味することができる。【汎用的技能】 ② 新聞、雑誌、一般教養図書など、何でも読みこなせるようになる。【汎用的技能】									

	③ 積極的に他者と協力して学びあう態度、互いに貢献し認めあう態度が身につく。【態度・志向性】
学修成果との関連	1.自ら考える能力を有する。
授業時間外学習【予習】	毎回授業の際に次回の内容に基づいた課題を出す。(2時間程度)
授業時間外学【復習】	授業で学んだ内容を振り返り、定期的に出題される課題や小レポートを確実に遂行すること。(2時間程度)
課題に対するフィードバック	課題やレポートのフィードバックは、授業時に適宜行う。必要に応じてUniversal Passportのクラスプロフィールも使用する。
評価方法・基準	・積極的な授業態度：10点 ・課題：30点 ・小レポート：30点 ・最終レポート：30点
テキスト	鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波新書
参考書	石黒 圭（2010）『「読む」技術 速読・精読・味読の力をつける』光文社新書
備考	※大学編入コースの学生を対象とした授業である。